

(株)古京碾茶加工場 代表取締役

北澤 孝さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「今後を考えると法人化が必要だった。手続きは大変だったがインターネットで調べて法人化した」と話すのは、和束町中古京地区の「(株)古京碾(てん)茶加工場」代表取締役の北澤孝さん(43)。

山城地域の山間に広がる同町は、府内でも最大の宇治茶の産地で、昼夜の寒暖差による霧が、おいしい茶を生み出す。その気候を生かした煎茶はブランドの「和束茶」として有名。加工用抹茶の需要が拡大し、同町でもてん茶の生産が増加してきた。

同社も以前は共同工場で煎茶の加工を行っていたが、同町にてん茶加工場が数件しかなかった20年前に父親がてん茶加工場を建てた

茶産地を守る先頭に

のを機に、てん茶一本に切り替えた。現在、4畝の茶園でてん茶を生産するとともに、地域の茶農家からてん茶加工を受託してJAに出荷する。

北澤さんは、高校卒業後、お茶一筋に取り組んできたが、父親から近年「主体になってやってほしい」と言われたことや、以前から税理士から勧められてきたこともあり、今年3月に同社を設立。「最

近はインターネット上に必要な情報があるので、法人化の手続きは自分で行った」と北澤さん。インターネットで調べた定款例を参考に同社の定款を作成し、自ら申請も行うなど、手続きや作業を自身で行っている。

「個人でやっているときは年に2、3回くらい税理士に帳簿のチェックをしてもらっていたが、法人化し会計帳簿をきっちり管理



▶自然豊かな和束町と茶園を背にする北澤さん

することで、自分自身でお金の流れが良く分かるようになった。個人経営から法人になったことで無駄が減り、設備投資もできるようになった」と、法人化のメリットを語る。

同町内では、高齢化などで離農者も増え、預かる農地が増えることも予想される。今後は、茶産地を守るために同社の経営面積を5畝くらいまで増やし、地元の人々の雇用を生みだしたいと考えている。「茶産地を守る意味でも、できる限り技術を磨き、より一層ブランド力を高めていきたい。売り先にアピールし、売り先が望むものを生産していきたい」と、北澤さんは将来への思いを語った。

■法人所在地 相楽郡和束町中古京4番地。(電)0774(78)2396。

■法人概要 2017年3月設立。役員2人、農繁期にパートタイマー10人。経営面積 4畝(てん茶)。農業機械 茶摘み機3台、管理機3台。てん茶加工場 2500平方尺、製造ライン2ライン。